

一般演題 管理・運用 OP9-1

COVID-19を経たの高気圧酸素治療室における感染対策

○向畑恭子¹⁾ 赤嶺史郎¹⁾ 清水徹郎²⁾

- | |
|--------------------------|
| 1) 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 臨床工学部 |
| 2) 高気圧酸素治療部, 救急診療科 |

【はじめに】

第1種と第2種の高気圧酸素治療装置を保有する当院は、通常の高気圧酸素治療（HBO）だけでなく、再圧治療にも積極的に取り組んでいる。3年以上続いたCOVID-19からの転換期を迎え、様々な分野で感染拡大以前の日常へ戻そうという動きがみられるが、今後も実践し続けなければならない感染対策について熟考したので報告する。

【当院における感染対策】

第2種装置中心の運用で、患者収容人数を2～3名としていたが、2020年からは1名のみとし、第1種装置を併用するようになった。現在も原則1名のみとしながらも、予約が多い場合は、入院患者を同時収容して行っている。

実際の感染対策としては、感染拡大以前から、治療と治療の間を30分以上あけているため、この時間を利用して清拭や換気を行い、焦ることなく次の患者を迎えることができていた。その他、高濃度酸素マスクを単回使用とし、HBO専用治療衣やタオルケットの使いまわしを禁止した。清拭に使用する消毒剤は、COVID-19に有効とされる第4級アンモニウム塩が主成分の製品を主軸に、対象となる病原微生物に有効な消毒剤を適宜使用している。

標準予防策は、COVID-19強化型（サージカルマスク・グローブ・フェイスシールド必須）になっていたが、現在通常型に戻っている。また、標準予防策自体の底上げとして、院内の擦式性消毒剤が、設置型から徐々に個人持ちとなっていたが、今年度から臨床工学部も個人持ちとなり、手指衛生のモニタリングとして、使用量の計測を開始した。

そして、経験の浅いスタッフに対して必要最低限の知識を提供することを目的に、独自にスライドを作成して部署内勉強会を行っている。

【考察・まとめ】

COVID-19に対する感染対策で当院最大の変更点は、第2種装置患者収容人数を1名のみにしたことで、その他の対策は、これまで行ってきたことを確実に行うというものだった。感染拡大による影響は、HBOに限らず多数考えられるが、患者制限をすることなく治療を継続していた当院の感染対策は、適正だったと考えている。

COVID-19の感染症法上の位置づけが、2類相当から5類へ引き下げられた今でも、感染者がゼロになったわけで

はない。COVID-19唯一のプラス効果ともいえる、感染対策に対する意識の向上を過去のものとするのではなく、感染対策を意識し、患者も自分も守るために、今後いかなる病原微生物に直面しても、臨機応変に対応できる感染対策を実践していきたい。